

(様式第4号) 交流・文化施設等運営管理計画検討委員会(第2回ホール検討委員会)会議概要

1	会議名	交流・文化施設等運営管理計画検討委員会(第2回ホール検討委員会)
2	日時	平成23年2月8日 午前11時10分から午後2時30分まで
3	会場	上田市役所3階 第1応接室
4	出席者	津村委員長、関田委員、渡辺委員、関口委員、金井委員、佐田市長アドバイザー 【欠席】成沢委員
5	市側出席者	伊藤交流・文化施設建設準備室長、中部文化振興課長、室賀交流・文化施設建設準備室室長補佐、若林室長補佐、滝沢文化振興課長補佐、掛川主査、徳田主査
6	運営支援業務受託者	A.T.Network 近江哲朗氏
7	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
8	傍聴者	3人 記者1人
9	会議概要作成年月日	平成23年2月9日
協議事項等		
1	開会	(伊藤交流・文化施設建設準備室長)
2	協議事項	委員長:第2回のホール検討委員会を進めるにあたり、どういうホールの事業をやっていくのか、そしてどうやって運営していくのかということを中心にお話を進めていきたい。 事務局:(資料説明) 委員長:自主事業について整備計画で定めている鑑賞事業、育成事業、創造・創作支援事業という観点からご意見を戴きたいが、まず「自主事業」というところの中の「総合的事业」ということで、最初に「交流・文化施設のメインとなる事業の実施」として、前回にも出たフェスティバルについて話を進めたい。 委員:今回の施設について、市長は「上田のシンボル」と表現しているが、これは建物のみならずソフト面も含めての表現だと思う。そしてソフトには、「あ、これが上田だ」という「顔」の見えるものも必要だということであろう。ピカッと光る何か上田の「顔」が見える事業を、市と市民とが総力を挙げて地元の力でつくる、そういった何か企画を、年に1本か2年に1本実施しては如何か。その例の一つとしては、上田国際音楽祭といったようなものを、例えば春は「千本桜まつり」、夏は「上田わっしょい」、それから秋の良いシーズンに、1週間なら1週間、ここを拠点館としながらも、セレスホールや上田文化会館、創造館、信州国際音楽村など、上田の持っているホール機能をフルに活用して展開する。主体は実行委員会的なものをつくって進め、市民のボランティアも参加してやっていくことが必要だと思う。 委員長:全市で盛り上げることが必要。フェスティバルはホールだけで主催する事業ではない。ホールだけでは発信が難しい。「腹を据えて」やる必要がある。 委員:松本市のサイトウキネンフェスティバルは小澤征爾さんという「顔」がはっきりしている。特徴や「顔」をはっきりさせなければ、なかなか特徴がつかめていけないところが、後発で出ると難しい部分になる。ポピュラーを入れて開催することも魅力的。 委員:いちばんのキーワードは、やっぱり「続けられるもの」であること。一発単発で終わってしまうことではいけない。 委員長:フェスティバルと交流事業をどういうふうにもマッチングさせるかが、すごく重要なことだと思う。市民が参加するフェスティバル、その市民の方々が参加してこのフェスティバルを支えることは、新しい公共の姿として大きな力になっていくはず。 アドバイザー:若い人の意見を大切にして、それに耳を傾けることが必要であろう。それから、館には営業力が必要。待っているだけでは事業は来ない。 事務局:市民の皆さん方のさまざまなご意見をお聞かせいただきたいということで、無作為抽出で3,000人を抽出しアンケート調査をさせていただいた経過はある。 委員:いかにリピーターを作るかという事が重要で、テーマパークをこれからつくろうという事とほとんど同じ発想が必要ではないか。

委員長：大切なのが、そのフェスティバルのメインコンセプトがいったい何なのかという、何のためのフェスティバルなのかということを考えておかなければならない。ところで、この施設で、知名度のある演劇の公演の可能性は考えられるか。

委員：大規模の演劇を年に数本やるのは良いと思う。ミュージカルも良い。

委員：自主事業予算が少ないので、民間等との共催なども重要。セールスの人材がほしい。

委員長：良い公演を持ってきても客が来るとは限らない。現実的には、クラシック等の興行主が手打ちで、自分たちだけのリスクで上田で事業を打つとは考えにくい。また、資料にある事業の想定本数を実際にやるとなると、稼働率は100%の計算になる。演劇は仕込みに何日もかかり、またメンテナンスの日数も必要。

委員長：次に、魅力ある公演と観客育成型の公演についての意見を戴きたい。

アドバイザー：大型のものを1年に何本か呼ぶという考え方もあり、あとは予算次第。

委員：数年の間に良いものをやったほうが良いと思う。ホールの中にそういう営業セールスをして、一級品をタダで持ってくるというような人材が欲しい。

委員：一般的に新ホール効果というのがあり、お客さんが1回は来てみたいと思うはず。問題は一回行ったあとにリピーターになるかどうかであろう。

アドバイザー：今回の施設はホールだけではなく美術館や練習場、そして広場もあってという面白い施設なので最初は見てみたいと思うだろう。それから、鑑賞事業について、年間7回としても、やっても1回もしくは2回に、良い公演を詰め込むということも必要。

委員：新幹線を使って東京からも、とにかく「上田に行かないとあれが聴けないよ」という、そのぐらいの目玉公演が必要。

委員：鑑賞事業のやり方も、観客育成と結びつけた何かひと工夫があることが望ましい。アウトリーチを含むようなひと工夫ある鑑賞事業は育成に繋がってゆくと考えられる。

委員：プロのオーケストラとフランチャイズ契約を結ぶことによって、公演回数を増やしたりアウトリーチに出してもらう事が可能となる。

委員：それはオーケストラにとってもメリットはある。

委員：上田だけで一公演を呼ぶよりも複数の会館が共同で公演を呼ぶことで、コストのメリットを生み出せる。

委員長：自主事業の最初に行われる開館オープニング事業については、最近では大きく打ち上げない場合も少なくない。

事務局：皆さん方からご意見を参考にオープニングイベントの開催について考えていきたい。

委員長：フランチャイズやレジデンス（※）に関しては、やはりちょっと大きな柱として残していきたいと思う。ご意見いただいたとおり、特にホールの性格を明確に出していくためには必要なことだと思う。（※芸術家を一定期間招聘し、滞在中に作品制作を行わせる事業）

委員長：次に、育成事業についてご意見等々いただきたい。

委員：今、中学校と小学校は義務教育の中で鑑賞音楽教室を年に1回、校長会主体で行っている。

委員長：ある都市は、中学校・高校生の観賞会に、学校単位でブロックをつくるのをやめて、バラバラで2人1組の指定席とすることで、おとなしく聴く方法が採用されている。

委員：プロのオーケストラを呼んできたときに、ゲネプロを見せてもらうのも良い。

委員長：そういう可能性を活かすにはフランチャイズは重要となる。

委員：中学生が一堂に会せないという事は、もう教育的な配慮に欠けることにもなると思うので、やはり1700席程度の規模が欲しい。

委員：アウトリーチを行うとワークショップに発展する。これらはたくさんやったほうが良い。

委員長：アウトリーチをやれるアーティストや演劇人は日本全国でも実は少数。しっかりと子どもたちに向き合えて、子どもたちに対して、このことで何を喚起してほしいのかというプログラムをちゃんと組める人は、長年関わってきたが本当に少ない。上田で人を育てることが重要。

委員：埼玉県は、「彩の国アーティスト」という組織で、埼玉県のアーティストの集まりをつくって、その人たちにアウトリーチに行ってもらったりしている。

委員長：それから、まち、たとえば商店街などとの協力も重要。

委員：商店に割引券などを配ったりしている館もある。

委員長：アリオでも昼にモールの中で数曲のワンコインコンサートなどをやれば人は集まるのでは。

委員：そして夜はホールで同じ人の1時間のコンサートをやる、となれば、アリオから人を呼びこんだことになる。積極的に連携すべき。最近のリタイヤした男性が昼間のコンサートに来る。

委員長：朝は子どもがアーティストのワークショップを学校で受ける。昼はその人のワンコインコンサートをお母さんが聞く。夜は同じ話題で家族の会話が広がる。

委員：最近演劇でも昼の公演が人気。土日の夜は人が入らなくて困っている

委員：商業地とのリンクは絶対に必要だと思う。

委員長：ホール運営と市民参加というところに触れて、友の会をどういう位置づけにするのか。通常よく見られる友の会とするか、ホールを支えるパトロニックの友の会とするか。これからはホールを支える友の会とした方が良いのではないか。

事務局：セレスホールにおいてもホールを支えるといった市民によるサポートの実績がある。

委員長：他施設の事例で存在するのが、ボランティアの傷害時の補償問題。ただ、ホールのことを理解してもらうためには、ボランティアで参加ということも大切である。

委員：舞台は怖い。プロでも怪我をすることがある。

アドバイザー：ボランティアについて、無償は危険であり、責任の面でも有償にすべき。

委員長：ボランティアの運営はホールが主体的にやるべきでない。ボランティア自体がボランティアを運営すべき。ホールが主体的にやると「お願い」して「やってもらっている」という感じで、実際に必要なときは来てくれなくなる。ボランティアの人が、「今日はあなたが当番です」と言ったほうが人を集められる。ただし研修はしっかり館が主体でやる。

委員長：市民参加や創造的事業についてご意見を。

委員：「上田コーラスフェスティバル 2010」を実施したが、その時には、「小さな合唱団でもみんな集まればいい」、「大ホールの舞台に上がることはできる」という認識を共有できた。今後は市民会館のさよならコンサートや、新しいホールの開館時にもコンサートを実施したい。新ホール誕生の機運を盛り上げる。

委員：フランチイズオーケストラがいれば共演できる。合唱は市民、ただしソリストはプロ、とすれば、大変立派な、市民参加型の開館イベントになる。

委員長：市民ミュージカルも半年くらいゆっくり時間をかけてやればよいものになる。ワークショップ的なものがある、そこのプロセスの中から最後に公演があるという流れが大切。

委員長：最後に貸館についてご意見を。

委員：例えば秋のような良い時期に、自主事業と貸館の関係をどうするかということは難しい。

アドバイザー：ホールの使用について、抽選と言う方法はかなり厳しさを感じる。また、利用のどのくらい前から受け付けるかについても大きな影響はある。

委員：運営体制に関して、指定管理か直営かという点ではやはりうまく滑り出すまでは、少なくとも直営でやっていくのがいい。上田からの発信性という点でいうと、トップになる人の発信性、個人の魅力、知名度というのが非常に大事。

委員：運営組織としての人が少ない、また事業費についてもかなり少ない。予算が少なくても人数が少ないのであれば、外の方の力を借りるということ考えたほうが良い。真田十勇士ではないが、10人なら10人頼んで十勇士になってもらうこともあろう。

委員長：どうやって運営するかという方法として、十勇士というのはとても素晴らしい案だと思う。

事務局：(欠席委員からの資料説明)

委員長：時間もかなり超過をいたしましたので、今回はこれにて終了としたいと思います。

## (2) 委員会の開催予定について

事務局：第3回ホール検討委員会は3/4(金)午前10時からとしたい。

委員：(了承)

3 閉会(伊藤交流・文化施設建設準備室長)